

## 僕は幻を夢見ているのか

卒業式典まで、時間があり、大藤が持ってきた中学校時代の遠足や、学校活動の写真ブックを見て、雑談。早いもんやなあ、もう三年や。

「うかうかしてたら、

何にもせんうちに、

大人になっちゃあうなあ。」

卒業式と言っても、おもしろくない。

まあ、その後の謝恩会とか言う会の食べ物を楽しみだった。

厳肅な卒業式の後には、バカ騒ぎの謝恩会だった。終われば、五時。

ロッカーのものも、卒業証書も、全部小さいカバンに突っ込み持って帰る。

家に帰ると六時三十分。

夕食を食べながら、考え込んでいた。

「もう、僕も高校か、

大人に一步近づいたなあ。

一体、どう今まで、生きて来たのか。」